

厚生労働大臣 塩澤 恭久 殿

特定非営利活動法人日本介護経営学会
会長 田中 滋

平成28年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健
健康増進等事業分）の事業実績報告について

平成28年9月20日厚生労働省発老0920第1号で交付決定を受けた標記補助金に係る事業実績報告
について、次のとおり関係書類を添えて報告する。

- 1 精算額 金13,770,000円
(注) 国庫補助所要額（精算額調書中、H欄に記載されるべき金額）を記入すること。
- 2 平成28年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）精算額調書（別紙1）
- 3 平成28年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）事業実施報告書及び支出
済額内訳書（別紙2）
- 4 事業概略書（別紙3）
- 5 添付書類
 - (1) 平成28年度歳入歳出（収入支出）決算（見込）書抄本。
(注) 決算書には、当該事業に係る経費である旨を関係部分に付記すること。
 - (2) 調査研究等事業については、調査研究等の報告書（成果物）12部を添付すること。また、報告書は
別紙4を参考に作成すること。
 - (3) その他、事業の内容について参考となる資料を添付すること。

別紙 1

平成28年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）精算額調書

特定非営利活動法人 日本介護経営学会

事業名	総事業費 (A)	寄附金 その他の 収入額 (B)	差引額 (A)-(B) (C)	基準額 (D)	対象経費 支出済額 (E)	選定額 (D)と(E)のいずれか 少ない方の額 (F)	国庫補助 基本額 (C)と(F)のいずれか 少ない方の額 (G)	国庫補助 所要額 (H)	国庫補助金 交付決定額 (I)	国庫補助 受入済額 (J)	国庫補助金 過不足額 (J)-(H) (K)
認知症の早期発見促進のための教育プログラムと早期発見を初期集中対応に連続化させる効果的手法の開発に関する調査研究	円 13,770,000	円 0	円 13,770,000	円 13,770,000	円 13,770,000	円 13,770,000	円 13,770,000	円 13,770,000	円 13,770,000	円 0	円 13,770,000
合計	円 13,770,000	円 0	円 13,770,000	円 13,770,000	円 13,770,000	円 13,770,000	円 13,770,000	円 13,770,000	円 13,770,000	円 0	円 13,770,000

(注) 1 本調書は、別紙2の支出済額内訳の金額と一致するものであること。

都道府県名、市町村名又は法人名
特定非営利活動法人日本介護経営学会

1. 事業実施報告書

テーマ番号 ※実施要綱別紙に該当する テーマ番号を記入すること	84
---------------------------------------	----

① □ 事業名	認知症の早期発見促進のための教育プログラムと早期発見を初期集中対応に連続化させる効果的手法の開発に関する調査研究
② 事業実施目的	<p>本学会が開発した「認知症早期発見・初期集中対応促進に資するアウトカム指標と定量的評価スケールの開発に関する調査研究」で開発した認知症スティグマ改善ツール（アウトカム評価指標と改善促進スケール）を用いて、早期発見を妨げている心理・社会的要因の改善効果に焦点化した教育プログラムを、効果検証試験を伴う形で開発する。また、早期発見を初期集中対応にスムーズに連続化させるケース・パスの手法を、地域包括支援センター・地域ケア会議・認知症専門医・ケアマネジャーの連携的機能改善と結びつけながら、モデル構築する。</p>
③ 事業実施経過	<p>◆認知症スティグマ低減に資する学習ツールの開発・実証実験・解析 認知症スティグマ（客体的スティグマおよび主体的スティグマ）の低減に効果のある学習ツール（学習テキストおよび低減効果測定テスト）を開発し、その実効性につき実証実験を実施した。市民向け学習ツールは札幌の湊仁会、米子のこうほうえん、糸島の志摩会が実施事務局となり各1回の地域講座方式で実験し、合計194サンプル・データが得られた。若手職員向けは、同3法人の入職3年未満の介護職員を対象にセルフラーニング方式で実験し、合計124サンプル・データが得られた。ベンチマーク用の比較データとして湊仁会のサービス提供責任者を対象とする研修を実施し、12サンプル・データが得られた。データの回収とデータセットの構築が外部に委託し、データセット解析は学会の調査研究実施委員会のワーキンググループで行った。</p> <p>◆認知症スティグマ低減に資する共活動体験プログラムの設計・運用に関する要素解析 認知症の人との質の高い共活動の体験は、人間受容力を高め、認知症へのスティグマを低減させる効果を有し、認知症に人への継続的支援を促すことが平成27年度に取組んだ本事業から分かっていることから、効果的な共活動プログラムとその運営に関し、ポジティブな要因を一般則として抽出する質的調査を、米子、糸島で実施した。対象は、社会福祉法人が任意事業で取組む地域カフェとした。</p> <p>◆認知症早期発見・初動対応の好事例と困難事例の聞き取り調査・解析 札幌2か所、米子2か所、福岡糸島1か所の地域包括支援センターの職員および関連する居宅介護支援事業所の職員から、合計33件の好事例と困難事例の聞き取りを行い、早期発見・初期集中支援を促進する要因をテキスト分析ツールを用いて解析し、促進要因ならびに阻害要因の一般則としてカテ</p>

③ 事業実施経過	<p>ゴリー化した。</p> <p>◆早期発見・初期集中支援において地域包括支援センターが果たしたワンストップ調整弁としての役割の分析 上記33件について、地域包括支援センターにケース情報がもたらされる経路分析を行い、好事例18件において地域包括支援センターが初期集中支援において実際に担った役割の分析を行った。また、困難事例15件において解消すべき役割構築上の課題の抽出を行い、解消の方途を解析した。</p> <p>◆地域包括支援センター認知症早期発見・初期集中支援標準マニュアルの作成 上記の33事例解析の結果を集約し、地域包括支援センターをワンストップの調整弁として機能させるための業務標準マニュアルを作成した。</p>
④ 国庫補助所要額	13,770千円
⑤ 事業実施期間	平成28年6月1日 から 平成29年3月31日 まで
⑥ 事業実施場所	東北福祉大学、東洋大学、社会福祉法人溪仁会、社会福祉法人こうほうえん、社会福祉法人志摩会
⑦ 事業結果の概要	<p>◆認知症スティグマ低減に資する学習ツールの開発・実証実験・解析 学習内容の構成を単なる知識習得ではなく、認知症の人の人間的・能力的可能性、「かも知れない兆候」を捉える方法、主体的にアクションする行動変容、人間受容力やストレス耐性の向上など実践的メニューとすることで、座学講座でも、自修での、スティグマ低減に顕著な効果を有することが実証された。</p> <p>◆認知症スティグマ低減に資する共活動体験プログラムの設計・運用に関する要素解析 プログラム設計では、特技・能力・生活歴や役割経験といった個人特性を活かし、有用感・役割感・協働感を組み込むこと、プログラム運営では、任意性、非拘束性、開放性、無償性、共生性と言った個別のコミットメントを通じた信頼と互酬の醸成に貢献可能な要素が抽出された。また、個別のコミットメントを通じた信頼と互酬が集積することで、カフェというシステムそのものへの信頼と継続的コミットメントが担保されることも解明された。</p> <p>◆認知症早期発見・初動対応の好事例と困難事例の聞き取り調査・解析 33事例聞き取り記録をテキスト分析データに変換し、「早期発見」「初動介入」の促進要因をカテゴリー抽出し、後述の標準マニュアルに要素展開した。</p> <p>◆早期発見・初期集中支援において地域包括支援センターが果たしたワンストップ調整弁としての役割の分析 33事例聞き取り記録から、認知症ケースはすべて最終的には地域包括支援センターに集約される事実を発見した。経路は7つあり、経路毎に一定の類型特徴があることも判明した。この事実を基に、厚労省の提示する認知症初期集中支援チームもモデルについて、地域包括支援センターをワンストップの調整弁とするための8点の修正提案を行った。</p> <p>◆地域包括支援センター認知症早期発見・初期集中支援標準マニュアルの作成 地域包括支援センターをワンストップの調整弁として機能させるための13の業務ステップから構成される標準マニュアルを作成した。</p>
⑧ 事業担当者	小笠原 浩一
⑨ 経理担当者	小山 秀夫

- (注) 1. 事業ごとに別葉とすること。
2. ③は、実施した事業について、その具体的な経過を詳細に記入すること。
3. ⑦は、実施した事業について、事業項目、客体、事業の実施方式等を具体的かつ詳細に記入すること。当該欄に記入困難な場合は、任意様式で提出することも可。
4. その他、事業の実施にあたって参考となる資料を添付すること。

2. 支出済額内訳書

都道府県名、市町村名又は法人名
 特定非営利活動法人 日本介護経営学会

経費区分	金額	積算内訳				金額
	(円)				(円)	
				(消費税の明記のなきものは内税)		
報酬	1,029,600	委員会 委員謝金	@14,300円	× のべ72人	=	1,029,600
賃金	836,000	シンポジウム運営補助等	@8,800円/日	× のべ2人	=	17,600
		事務局職員賃金	@8,800円/日	× のべ93人	=	818,400
報償費	313,850	講師謝金	4人 × 5.0時間	× @7,100円	=	142,000
			3人 × 4.5時間	× @7,100円	=	95,850
		原稿料	10.0枚	× @2,000円	=	20,000
			18.0枚	× @2,000円	=	36,000
			10.0枚	× @2,000円	=	20,000
旅費	4,841,692	研究委員会・セミナー講演等				1,050,424
		(教授級) (東北福祉大前) ~ (四ッ谷)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× 25,000	=	25,000	
		(教授級) (新神戸) ~ (四ッ谷)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× 32,800	=	32,800	
		(教授級) (新大阪) ~ (四ッ谷)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× 31,500	=	31,500	
		(教授級) (太田川) ~ (四ッ谷)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× 25,580	=	25,580	
		(教授級) (三本松口) ~ (四ッ谷)	通常期 1泊2日			
		1人 × 1回	× 53,160	=	53,160	
		(教授級) (茨木) ~ (四ッ谷)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× 31,500	=	31,500	
		(教授級) (神田) ~ (四ッ谷)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @2,920円	=	2,920	
		(教授級) (石巻) ~ (四ッ谷)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @23,060円	=	23,060	
		(教授級) (蛇田) ~ (四ッ谷)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @23,820円	=	23,820	
		(教授級) (北仙台) ~ (四ッ谷)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @21,980円	=	21,980	
		(教授級) (東北福祉大前) 茨木	通常期 1泊2日			
		1人 × 1回	× @58,400円	=	58,400	
		(教授級) (新神戸) (茨木)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @4,440円	=	4,440	
		(教授級) (三本松口) (茨木)	通常期 1泊2日			
		1人 × 1回	× @35,380円	=	35,380	
		(教授級) (新狭山) (茨木)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @29,764円	=	29,764	
		(教授級) (乾隆校前) (茨木)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @1,380円	=	1,380	
		(教授級) (高原町) (茨木)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @1,900円	=	1,900	
		(教授級) (神田) (茨木)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @31,500円	=	31,500	
		(教授級) (神田) (茨木)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @31,500円	=	31,500	
		(教授級) (東北福祉大前) (東京)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @25,000円	=	25,000	
		(教授級) (新神戸) (東京)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @32,800円	=	32,800	
		(教授級) (新大阪) (東京)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @31,500円	=	31,500	
		(教授級) (新神戸) (東京)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @32,800円	=	32,800	
		(教授級) (新大阪) (東京)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @31,500円	=	31,500	
		(教授級) (東北福祉大前) (東京)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @25,000円	=	25,000	
		(教授級) (新神戸) (東京)	通常期 日帰り			
		1人 × 1回	× @32,800円	=	32,800	

経費区分	金額	積算内訳			
(教授級)		(仙台)	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× @25,000円 =	25,000
(教授級)		(三本松口)	(東京)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @55,420円 =	55,420
(教授級)		(南草津)	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× @30,620円 =	30,620
(教授級)		(新神戸) ~	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× 32,800 =	32,800
(教授級)		(新大阪) ~	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× 31,500 =	31,500
(教授級)		(新神戸) ~	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× 32,800 =	32,800
(教授級)		(新大阪) ~	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× 31,500 =	31,500
(教授級)		(新神戸) ~	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× 32,800 =	32,800
(教授級)		(新大阪) ~	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× 31,500 =	31,500
(教授級)		(新神戸) ~	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× 32,800 =	32,800
(教授級)		(新大阪) ~	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× 31,500 =	31,500
(教授級)		(神田) ~	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× @2,600円 =	2,600
(教授級)		(神田) ~	(東京)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× @2,600円 =	2,600
					<u>2,554,698</u>
		<u>調査ヒアリング等</u>			
(教授級)		(仙台)	(品川)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× @24,380円 =	24,380
(教授級)		(仙台)	(西28丁目)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× @97,580円 =	97,580
(教授級)		(仙台)	(筑前前原)	通常期 日帰り	
		1人 ×	1回	× @107,600円 =	107,600
(教授級)		(仙台)	(札幌)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @54,850円 =	54,850
(教授級)		(仙台)	(糸島)	通常期 2泊3日	
		1人 ×	1回	× @145,823円 =	145,823
(講師級)		(仙台)	(札幌)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @40,350円 =	40,350
(講師級)		(仙台)	(糸島)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @99,073円 =	99,073
(講師級)		(仙台)	(札幌)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @40,350円 =	40,350
(講師級)		(仙台)	(糸島)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @99,073円 =	99,073
(教授級)		(仙台)	(米子)	通常期 2泊3日	
		1人 ×	1回	× @120,726円 =	120,726
(教授級)		(仙台)	(米子)	通常期 2泊3日	
		1人 ×	1回	× @99,404円 =	99,404
(講師級)		(仙台)	(札幌)	通常期 2泊3日	
		1人 ×	1回	× @98,440円 =	98,440
(教授級)		(仙台)	(筑前前原)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @88,760円 =	88,760
(教授級)		(仙台)	(西28丁目)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @76,140円 =	76,140
(教授級)		(仙台)	(米子)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @99,340円 =	99,340
(教授級)		(仙台)	(札幌)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @76,040円 =	76,040
(教授級)		(仙台)	(米子)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @110,940円 =	110,940
(教授級)		(仙台)	(糸島)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @101,220円 =	101,220
(教授級)		(仙台)	(米子)	通常期 1泊2日	
		1人 ×	1回	× @86,550円 =	86,550

経費区分	金額	積算		内訳		金額
(教授級)		(仙台)	(札幌)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@86,200円	= 86,200
(教授級)		(仙台)	(糸島)	通常期	1泊2日	
		1人	× 1回	×	@116,900円	= 116,900
(講師級)		(仙台)	(米子)	通常期	1泊2日	
		1人	× 1回	×	@108,340円	= 108,340
(講師級)		(仙台)	(糸島)	通常期	1泊2日	
		1人	× 1回	×	@104,950円	= 104,950
(教授級)		(仙台)	(札幌)	通常期	1泊2日	
		1人	× 1回	×	@42,350円	= 42,350
(教授級)		(仙台)	(糸島)	通常期	2泊3日	
		1人	× 1回	×	@112,993円	= 112,993
(教授級)		(仙台)	(札幌)	通常期	2泊3日	
		1人	× 1回	×	@103,626円	= 103,626
(教授級)		(仙台)	(糸島)	通常期	1泊2日	
		1人	× 1回	×	@107,750円	= 107,750
(教授級)		(仙台)	(糸島)	通常期	1泊2日	
		1人	× 1回	×	@104,950円	= 104,950
作業実施委員会						1,236,570
(教授級)		(仙台)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@24,170円	= 24,170
(教授級)		(仙台)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@24,600円	= 24,600
(講師級)		(陸前落合)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@24,600円	= 24,600
(講師級)		(東北福祉大前)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@24,600円	= 24,600
(講師級)		(篠路)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@59,180円	= 59,180
(講師級)		(米子空港)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@37,380円	= 37,380
(講師級)		(筑前前原/初)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@61,040円	= 61,040
(教授級)		(新大阪)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@29,340円	= 29,340
(教授級)		(仙台)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@24,170円	= 24,170
(講師級)		(陸前落合)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@24,600円	= 24,600
(講師級)		(東北福祉大前)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@23,970円	= 23,970
(講師級)		(篠路)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@59,180円	= 59,180
(講師級)		(筑前前原/初)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@61,500円	= 61,500
(講師級)		(米子空港)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@37,380円	= 37,380
(教授級)		(仙台)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@25,000円	= 25,000
(講師級)		(仙台)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@24,600円	= 24,600
(講師級)		(東北福祉大前)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@24,200円	= 24,200
(講師級)		(篠路)	(浜松町)	通常期	1泊2日	
		1人	× 1回	×	@45,180円	= 45,180
(講師級)		(筑前前原/初)	(浜松町)	通常期	1泊2日	
		1人	× 1回	×	@69,540円	= 69,540
(講師級)		(往:鹿児島空港)	(浜松町)	通常期	1泊2日	
		1人	× 1回	×	@57,630円	= 57,630
(教授級)		(新大阪)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@29,340円	= 29,340
(教授級)		(仙台)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@25,000円	= 25,000
(講師級)		(東北福祉大前)	(浜松町)	通常期	日帰り	
		1人	× 1回	×	@24,600円	= 24,600

経費区分	金額	積算内訳						
		(講師級)	(仙台)	(浜松町)	通常期	日帰り		
		1人	×	1回	×	@24,600円	=	24,600
		(講師級)	(陸前落合)	(浜松町)	通常期	日帰り		
		1人	×	1回	×	@24,600円	=	24,600
		(講師級)	(篠路)	(浜松町)	通常期	日帰り		
		1人	×	1回	×	@47,300円	=	47,300
		(教授級)	(筑前前原/初)	(浜松町)	通常期	日帰り		
		1人	×	1回	×	@47,100円	=	47,100
		(講師級)	(米子空港)	(浜松町)	通常期	日帰り		
		1人	×	1回	×	@45,980円	=	45,980
		(講師級)	(仙台)	(東京)	通常期	日帰り		
		1人	×	1回	×	@38,100円	=	38,100
		(講師級)	(陸前落合)	(東京)	通常期	日帰り		
		1人	×	1回	×	@35,500円	=	35,500
		(講師級)	(篠路)	(東京)	通常期	日帰り		
		1人	×	1回	×	@82,060円	=	82,060
		(教授級)	(筑前前原/初)	(東京)	通常期	日帰り		
		1人	×	1回	×	@50,530円	=	50,530
消耗品	12,699	ゼムクリップ(小)	2袋	×	@90.0	=	180	
		ゼムクリップ(大)	2袋	×	@390.0	=	780	
		両面テープ	1つ	×	@370.0	=	370	
					小計	1,330	×	1.08
							=	1,436
		ラベルシール	2袋	×	@4,200.0	×	1.08	=
							=	9,072
		チューブファイル	3冊	×	@511.0	×	1.08	=
							=	1,655
		ボールペン	3本	×	@99.0	×	1.08	=
							=	320
		蛍光ペン	2本	×	@100.0	×	1.08	=
							=	216
会議費	115,878	7/9弁当・コーヒー代	15人	×	@1,680.0	×	1.08	=
							=	27,216
		7/15コーヒー代	8人	×	@437.5	×	1.08	=
							=	3,780
		8/2コーヒー代	8人	×	@437.5	×	1.08	=
							=	3,780
		9/20コーヒー代	8人	×	@437.5	×	1.08	=
							=	3,780
		10/7コーヒー代	4人	×	@450.0	×	1.08	=
							=	1,944
		11/20弁当代	13人	×	@1,500.0			=
							=	19,500
		11/20コーヒー代	15人	×	@200.0	×	1.08	=
							=	3,240
		11/21コーヒー代	4人	×	@450.0	×	1.08	=
							=	1,944
		1/6コーヒー代	6人	×	@475.0			=
							=	2,850
		1/20コーヒー代	8人	×	@437.5	×	1.08	=
							=	3,780
		2/6コーヒー代	4人	×	@450.0	×	1.08	=
							=	1,944
		3/3コーヒー代	4人	×	@450.0	×	1.08	=
							=	1,944
		3/19弁当・コーヒー代	24人	×	@1,475.0	×	1.08	=
							=	38,232
		3/27コーヒー代	4人	×	@450.0	×	1.08	=
							=	1,944
印刷製本費	1,341,864	調査票印刷代			下記小計	×	1.08	=
							=	270,993
		テキスト(市民)	300部	×	@235.0	=	70,500	
		テキスト(職員)	180枚	×	@380.0	=	68,400	
		調査票/事前(市民)	300部	×	@50.0	=	15,000	
		調査票/事前(職員)	180部	×	@67.0	=	12,060	
		調査票/事後(市民)	300部	×	@43.5	=	13,050	
		調査票/事後(職員)	180部	×	@61.0	=	10,980	
		マークシート/事前(職員)	180部	×	@112.0	=	20,160	
		マークシート/事後(職員)	180部	×	@112.0	=	20,160	
		回収封筒(市民)	300部	×	@36.0	=	10,800	
		回収封筒(職員)	180部	×	@44.5	=	8,010	小計
		調査指示書	180部	×	@10.0	=	1,800	250,920
		資料印刷代			下記小計	×	1.08	=
							=	411,091
		研究報告会案内状印刷代	279枚	×	@120.0	=	33,480	
		研究協力者協力感謝状印刷代	279枚	×	@40.0	=	11,160	
		研究報告会資料印刷代	8,000枚	×	@20.0	=	160,000	
		研究会資料印刷代	1,200枚	×	@100.0	=	120,000	
		会計事務資料コピー代	2,400頁	×	@20.0	=	48,000	
		支払通知印刷代	200枚	×	@20.0	=	4,000	小計
		支払通知マスクングシート代	200枚	×	@20.0	=	4,000	380,640

経費区分	金額	積算内訳									
雑役務費	131,220	研究広告書印刷代	500部	×	@1,285.0	=	642,500				
		封筒(角2)印刷代	500部	×	@32.0	×	1.08	=	17,280		
		調査結果読み取り作業	144件	×	@100.0	×	1.08	=	15,552		
		調査結果データ入力作業	390件	×	@130.0	×	1.08	=	54,756		
		報告書等発送作業	279件	×	@100.0	×	1.08	=	30,132		
		振込手数料	17件	×	@108		=	1,836			
			38件	×	@216		=	8,208			
			46件	×	@432		=	19,872			
			1件	×	@864		=	864			
		通信運搬費	177,869	セミナー実証実験資料送料	糸島市		@1,504	×	2件	=	3,008
	札幌市				@1,188	×	2件	=	2,376		
	米子市				@1,803	×	1件	=	1,803		
調査票送料	糸島市				@1,520	×	1件	=	1,520		
	札幌市				@1,080	×	1件	=	1,080		
	米子市				@1,620	×	1件	=	1,620		
	糸島市				@1,296	×	1件	=	1,296		
	札幌市				@1,620	×	1件	=	1,620		
	米子市				@1,404	×	1件	=	1,404		
	11/30セミナー案内状発送費				@82	×	52件	=	4,264		
	研究報告会案内状郵送料				@52	×	279件	=	14,508		
	研究報告会資料一式DM送料				@86	×	279件	=	23,994		
	支払通知マスキングシート郵送料				@52	×	198件	=	10,296		
	研究報告書発送費				@279	×	360件	=	100,440		
	研究報告書発送費(委員宛)宅急便代				@972	×	7件	=	6,804		
	研究報告書発送費(委員宛)宅急便代				@1,836	×	1件	=	1,836		
委託費	3,778,704			平成26年度介護サービス事業者としての社会福祉法人等の生活支援サービス推進主体調査業務			3,200,000	×	1.08	=	3,456,000
				データベース化・解析等追加作業代			298,800	×	1.08	=	322,704
借料及び 損料	1,190,624			7/9会場代	東京		@54,648円	×	1回	=	54,648
		7/15会場代	東京		@17,760円	×	1回	=	17,760		
		8/2会場代	東京		@23,680円	×	1回	=	23,680		
		9/20会場代	東京		@23,680円	×	1回	=	23,680		
		10/7会場代	東京		@16,200円	×	1回	=	16,200		
		11/21会場代	東京		@16,200円	×	1回	=	16,200		
		11/26会場代	米子		@82,080円	×	1回	=	82,080		
		12/11会場代	米子		@82,080円	×	1回	=	82,080		
		1/6会場代	東京		@9,720円	×	1回	=	9,720		
		1/16会場代	札幌		@88,560円	×	1回	=	88,560		
		1/20会場代	東京		@23,680円	×	1回	=	23,680		
		2/3会場代	札幌		@88,560円	×	1回	=	88,560		
		2/6会場代	東京		@16,200円	×	1回	=	16,200		
		3/3会場代	東京		@16,200円	×	1回	=	16,200		
		3/19会場代	東京		@102,600円	×	1回	=	102,600		
3/19会場代	東京		@512,576円	×	1回	=	512,576				
3/27会場代	東京		@16,200円	×	1回	=	16,200				
合計	13,770,000	利息 0 円									

認知症の早期発見促進のための教育プログラムと早期発見を初期集中対応に
連続化させる効果的手法の開発に関する調査研究事業

特定非営利活動法人日本介護経営学会（報告書A 4版 152頁）

事業目的

本学会が開発した「認知症早期発見・初期集中対応促進に資するアウトカム指標と定量的評価スケールの開発に関する調査研究」で開発した認知症スティグマ度改善ツール（アウトカム評価指標と改善促進スケール）を用いて、早期発見を妨げている心理・社会的要因の改善効果に焦点化した教育プログラムを、効果検証試験を伴う形で開発する。また、早期発見を初期集中対応にスムーズに連続化させるケース・パスの手法を、地域包括支援センター・地域ケア会議・認知症専門医・ケアマネジャーの連携的機能改善と結びつけながら、モデル構築する。

事業概要

◆ 早期発見・初期集中支援の好事例・困難事例の聞き取り調査

立地条件の異なる札幌市白石第一、札幌市白石第三、米子市尚徳、米子市住吉・加茂、糸島市志摩の5地域包括支援センターならびに、社会福祉法人こうほうえんデイサービスセンターいしい、社会福祉法人志摩会たからんたま志摩ケアプランセンター、糸島在宅医療連携拠点センター「糸島メディカルカフェ」の認知症早期発見・初期集中支援のフロントサービスを担当する関係職員を対象にした、早期発見・初期集中対応の成功事例18件と、早期発見を初期集中支援に繋げることができなかった課題事例15件につき、個人情報秘匿の上でのインタビュー・ヒアリングを実施した。聞き取りは、1ケース1時間程度、1ケースあたりの聞き取り対象職員2名、1ケースあたりの聞き取り調査者2名、聞き取り記録はSPSS Text Analytic for Surveys (IBM)内蔵の言語学的手法に基づくカテゴリー抽出用の分析データに整理し、ウェブパネルによる視覚化を採用し、カテゴリー関係性を検討した。

◆ 認知症スティグマ低減に効果的な学習ツールの開発と学習ツールの効果検証のための実証実験

平成27年度の本事業において実証した認知症スティグマに作用する21の要因と認知症の人の心理・能力的可能性に関する知識を中心に、これに人の行動特性を左右する対人信頼感・人間受容力・ストレス耐性を操作を組んだ学習テキストを、一般市民用と若手介護職員の2種類を開発した。また、テキスト学習の前後におけるスティグマ低減効果測定テストを、一般市民用、若手職員用の2種類に、それぞれ、学習前テスト、学習後テストの2種類、合計4種類を開発した。

実証実験は、一般市民については、日本介護経営学会主催、社会福祉法人溪仁会・社会福祉法人こうほうえん・社会福祉法人志摩会が実施事務局となった公開地域講座の方式で、実施した。実証実験参加者は合計で300、前後テストの回収は197、解析可能な対象数195、有効回答数191であった。若手職員については、上記3法人に雇用されて3年未満の職員を対象とし、セルフラーニングの方法で実施した。実証実験参加者は180、回収は124であった。すべて有効回答であった。

若手職員データの評価について、ベンチマーク指標とする目的で、社会福祉法人溪仁会の居宅介護事業所のサービス提供責任者全員を対象とする若手職員用と同一の学習ツールを用いた座学研修講座を実施した。配布数18、回収数12、すべて有効回答であった。

得られたデータについて、解析・検定を実施し、学習ツールの効果が検証された。

◆ 認知症の人との共活動体験の有効性ならびに効果的共活動体験の空間としての「空白の初期」における地域カフェのデザイン・運営に関する調査分析

社会福祉法人こうほうえんが運営する地域カフェ「いしい」と社会福祉法人志摩会が運営する地域カフェ「おこもりカフェ」を対象に、カフェ運営の中心となっている地域ボランティアのリーダークラスの方とカフェ利用者を対象にした聞き取りと、カフェ空間の編成ならびに関係性・役割のあり方に関する参与観察を実施した。聞き取り対象者は、リーダー各2名、利用者は、一堂に会してのお茶会時間中に、集団面接・任意発言で、実施した。カフェの運営主体である地域包括支援センター主任ケアマネへの聞き取りも併せて実施した。

◆ 日本介護経営学会として組織的な実施体制とするために、学会内に「老人保健健康増進等事業委員会」（研究担当副会長、総務担当副会長、理事2名）を設置し、進捗の要点で3回開催し、調査研究実施の全体を統括した。その下に「調査研究実施委員会」（研究担当副会長を主査とし、研究者4名、協力社会福祉法人の幹部クラス3名、合計8名）を設置し、調査研究事業の要点で5回開催しながら、調査研究の実施にあたった。その中の研究者メンバー4名を「調査研究ワーキンググループ」として組織し、調査の実働、調査結果の分析、報告書の執筆を担当した。

◆ 学習テキストの印刷製本、前後テストの印刷製本、調査実施時に用いる配布・回収用封筒の印刷、各実施法人への調査票の送付・回収、データ入力、単純集計データのセットづくりを委託した。委託先は、株式会社ホクトコーポレーション（仙台市青葉区）で、調査業務の専門事業者である。

調査研究の過程

◆ 調査研究過程は、調査設計段階における仮説構築、調査方法の検討、調査実施に協力を得る3社会福祉法人との事前調整が上首尾に進んだことが効を奏して、概ね、予定された工程で実施する事ができた。調査方法を変更する必要性も生じなかったが、1点のみ、当初予定していた複数の大学の社会福祉学を専攻する学生を対象とするマス・サーベイについて、実施設計段階において、学会の倫理審査手続きに加え、各大学内の倫理審査手続きを要することが判り、時間制約と各大学で異なる実施方法を採用する必要が予測されるという調査技術的制約の可能性とから、実施を見送ることとした。ただし、一般市民向けならびに介護職員向け実証実験が、仮説の実証はもちろんのこと、予想していた以上の明確な効果を得る結果となったため、学生調査を実施しなかったことに因る本調査研究事業全体への影響はネグリジブルである。

一般市民向け実証実験地域講座のうち、社会福祉法人こうほうえんを事務局として実施した講座について、米子市が認知症サポーター養成講座として認証することとなった。

◆ 調査研究工程が効果的・効率的に進捗したこと余剰の成果として、当初計画で予定していなかった地域包括支援センター認知症早期発見・初期集中支援標準マニュアルを策定することができた。マニュアルとしての現場での使い勝手を検証するための聞き取り調査を札幌市白石第一・第三、米子市尚徳、米子市住吉・加茂、糸島市志摩の各地域包括支援センターで実施する事ができ、業務マニュアルとしてだけではなく、とくに新規配属職員向けの研修教材としても活用可能であることが検証された。

事業結果

◆ 認知症スティグマ低減と早期発見行動促進に有効な学習ツールを開発した。実証実験の結果、①認知症スティグマを学習を通じて低減させ得ること、②効果的な学習は知識獲得だけでなく、認知症の本人の心理と能力的可能性に対する理解、対人信頼感・人間受容力の向上、ストレス耐性の向上を一体に組み合わせることで効果を向上させられること、③学習を通じてスティグマ低減に成功した当事者の早期発見行動への主体的レディネスが高まること、④学習効果は、一般市民だけでなく、介護職員にも同様に現れること、が実証された。

なお、「早期」は自立生活の継続にリスクとなる「かも知れない兆候」が表れる段階と定義した。また、早期発見には、家族や隣人の気づきが、かかりつけ医の判断など日常生活の場面が重要であるという一般常識に加え、地域カフェなど医療・介護資源の「空白の初期」段階における地域的取組みが決定的に重要であることも実証された。

◆ 本研究では、「初期集中支援」をケース発見後の迅速な「初動」と定義した。事例調査から、①認知症早期発見情報は、必ず地域包括支援センターに集約されていること、②センターに集約される経路が7通りあり、経路ごとにケースの類型の特徴を有していること、③初動対応の成功には8つの要因が影響していること、逆に初動対応が上手くいかない場合には2つの要因が影響していること、④地域包括支援センターが初期集中支援の初動にワンストップの調整弁としての機能を保有すること、といった事実が発見された。

◆ これらを基に、学習ツール（学習テキストと学習前後におけるスティグマ低減測定テスト）、効果的な学習方法、「初期の空白」に対応する地域カフェの運営指針、地域包括支援センターの早期発見・初期集中対応標準マニュアル、初期集中支援チーム設置促進モデル事業概念図の修正提案を行った。3月19日に都内において公開の成果報告会を実施済みである。

◆ 以上の成果を基に、今後、開発した学習ツールを社会の各方面で活用可能なサブタイプへと展開

し、汎用化して普及を図るとともに、地域包括支援センターがワンストップ調整弁に相応しい組織体制と業務実施能力を整えていくのに必要な支援施策と業務方針を開発していくことにしている。

事業実施機関

特定非営利活動法人 日本介護経営学会
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-3-9
電話番号 03-5244-5141